

## 医学生体験型セミナー



# 当直中の救急外来での 対応を疑似体験



5月26日(日)、みみはら高砂クリニックで医学部高学年向け臨床セミナー「絶対に断ってはいけない当直24時」が開催されました。大阪民医連での臨床研修や、市中病院のおもしろさを広く知ってもらうことを目的に、研修医中心に企画・開催しているこのセミナーは、今回で14回目の開催となります。今回も看護師や事務、耳原以外の病院に勤務する医師など多くの職員の協力で、医学部生20人を含めた総勢76人が参加しました。

## 当直中に起こる急変に ハラハラ、どきどき

内容は、病院での当直を想定し、現場での対応を疑似体験するものです。医学生は仮眠しているときに、突然電話で呼び出されるところから体験がスタート。シナリオには看取りやてんかん、骨折、心肺停止など15パターンが用意され、研修医役の医学生は現場

るための問診でも「お腹が痛い」「わからない」との繰り返し。原因は？今すぐ行つべき検査は？点滴は必要？…など、ひとつひとつ考えながら診察し、一連の対応後は上級医からレクチャーを受けます。このケースでのリスクとして考えるべきことや、迷った時は一人で判断せずに専門医に相談する、といった教訓を学びました。

最後に指導医から各シナリオでの教訓や学生の対応について、医学的なことだけでなく、患者さんの生活背景やその後の必要となる支援は何かなど、民医連ならではのアドバイスも伝えられました。疑似体験の待機時間には、栄養剤や感染症のレクチャーなども行われ、医学生にとつて丸一日神経を使えばなしのセミナーですが、楽しく有意義に学んでいただけだと思います。

参加した医学生からは「急に一人で診察の場に投げ出される緊張感があり、頭をフル回転させる体験が勉強の励みになりました」「社会的な背景を重点的とするところもありさまざまな面で勉強になりました」「体験型のセミナーは、座学の何倍効果があるんだろ」と感じるほど良かったとの感想が寄せられました。また参加者の半数から、耳原総合病院で研修をしたいと答えてくれ、当院の魅力が伝わるセミナーとなりました。(耳原総合病院 医局事務課 角野)

## こんにちは！ 同仁会グループ 事業所だより



「バスがあるなんて知らなかった」との声も聞かれます。乗用されるとき

塔でもあり大きな宣伝効果となります。乗用されるとき「バスがあるなんて知らなかった」との声も聞かれます。乗用されるとき

また送迎車は地域に映る広告塔でもあり大きな宣伝効果となります。乗用されるとき「バスがあるなんて知らなかった」との声も聞かれます。乗用されるとき

## 安心・安全のネット ワークの一翼として

## 患者・利用者さんに寄り添い 「安心・安全」の快適な送迎を

私たちは、同仁会の各事業所の患者・利用者さんの送迎業務を担っています。主要駅と各事業所の運行路線を回るマイクロバス、救急車、訪問診療やデイクア利用者さんの送迎、透析患者さんをはじめとした個別送迎など総台数52台を71人の要員が時間単位で運転業務に携わっています。

## 事故やトラブルを未然に防止するために

今日の社会的な問題となっている飲酒運転の事故や高齢者による逆走等の状況は、私たち運転者に警鐘を鳴らしています。患者・利用者さんの大切な命をお預かりしている者の責務として乗用前のアルコール検査測定、車両安全点検の実施や健康管理を図るための定期健康診断を全要員対象に実施しています。また安全運転講習会を年4回、接遇向上にむけた研修会なども開催しています。

これからも親切でいねいな言動を心がけ、何よりも安心して快適にご利用いただける「患者・利用者さんに寄り添う送迎」をめざし奮闘します。

（同仁会各事業所患者利用者送迎統括責任者 福原 太一）

※ 運行コースは各事業所にお問合せください。(ホームページにも掲載しています)